

令和5年度 長岡京市東地域包括支援センター（基幹）アクションプラン及び実績報告

東包括目標	アクションプラン(行動計画)	令和5年度実施内容	評価	課題・改善点
<p>① 「いろんなことを包括的に受け止める包括へ」</p> <p>地域包括支援センター等の対応力の向上と連携の推進</p>	<p>地域包括支援センターの調整機能</p> <p>○地域包括支援センター連絡協議会の開催（月1回） 日々の相談業務に反映できるよう、各包括が抱えている課題をタイムリーに出し合う場を運営する。</p> <p>○専門職部会の実施 ・医療職部会：介護予防カレンダー作成し、出張講座の情報共有をしながら、介護予防の普及啓発に取り組む。 ・社会福祉士部会：虐待対応会議の開催方法など、適切な判断や対応が出来る様、情報共有する。 ・主任介護支援専門員部会：各包括で、ケアマネジャーからの相談ケースを整理し、内容毎に必要な研修を実施する。</p>	<p>○専門職部会の実施 医療職部会： 4/18・6/20 介護予防カレンダーを作成。 出張講座の講座資料の共有をした。 社会福祉士部会：4/28・5/31 虐待対応帳票の見直しや入力簡略化を図っている。 主任ケアマネジャー部会：4/20・6/15 地域ケア個別会議のあり方について、情報共有できた。民生児童委員の福祉部向け出張講座(7/24)の内容を検討。</p> <p>○地域包括支援センター職員のスキルアップ研修：11月で検討中 地域包括支援センターの三職種合同研修を開催：虐待対応から日々の業務まで意見を交換。</p> <p>○地域包括支援センター連絡協議会 月1回開催 地域ケア個別会議や各事業所連絡会の内容を共有したり、業務を整理できるものなどについて検討している。</p>	<p>医療職部会：出張講座の資料を共有した事で、講座の内容に幅が出来た。 社会福祉士部会：見直しする事で、虐待対応の判断基準を整えるきっかけになっている。 主任ケアマネジャー部会：会議のあり方については、今後も検討が必要。民生児童委員に、包括の周知が出来た。 地域包括支援センター職員のフォローアップという視点で、地域包括支援センターの三職種合同研修を行うことができた。スキルアップ研修は、内容を検討予定。地域包括支援センター連絡協議会の中でも、日々の業務に対する課題解決だけでなく、地域課題（地域の見守りやゴミ出し方法、空家問題など）にどう対応しているかなどの情報共有も出来た。</p>	<p>医療職部会：介護予防に繋がる取り組みを検討していく。 社会福祉士部会：虐待対応会議については、今後情報共有重ね、適切な判断や対応ができるようにしていく。 主任ケアマネジャー部会：地域ケアマネジメント会議のあり方についても、今後検討していく。 専門職部会では引き続き、日々の業務を円滑にできるよう取り組んでいく。 地域包括支援センター連絡協議会では、地域ケアマネジメント会議や地域ケア個別会議から地域課題を抽出し、検討できる場にしていきたい。</p>
<p>②「介護予防や認知症がもっと身近になる」</p> <p>介護予防に取り組む人や認知症の方やその家族の応援者を増やす</p>	<p>介護予防の取り組みをもっと身近にするツール</p> <p>医療職部会で介護予防カレンダーの内容を検討し、市民や専門職と協働し、発行する。</p> <p>認知症サポーター養成講座の実施</p> <p>認知症を正しく理解し、認知症の理解者を増やす。特に、介護世代である40～50歳台への認知症の理解を促進する。 ○認知症サポーター養成講座の実施（年間400人） ○認知症サポーターフォローアップ講座の実施（年1回）</p>	<p>介護予防カレンダーの作成中で、8月28日より配布予定。通所リハビリテーション事業所連絡会ややすらぎクラブ長岡京に協力いただいた。</p> <p>認知症サポーター養成講座を3回実施し、55名のサポーターを養成した。今回、スーパーへの認知症啓発（20～70歳台）（内訳：20歳台 11名・30歳台 2名・40歳台 9名・50歳台 17名・60歳台 13名・70歳台 3名）ができ、対応の仕方など色々な意見があった。</p>	<p>やすらぎクラブ長岡京など市民の方に協力いただく事で、介護予防に興味を持っていただくきっかけを持たた。</p> <p>高齢者が多く来店する場所で働く方に、認知症について知っていただく事が出来た。実際に、認知症の方への対応を難しいと感じていた方が多く、「驚かせない」「急がせない」「自尊心を傷つけない」などの心得を伝えることができた。</p>	<p>8月から配布予定となっている為、出張講座や地域活動などで、活用して頂きたい。</p> <p>今後も、認知症の方と関わる機会が多いスーパーや金融機関などで実施していきたい。また関わる機会の少ない若い働き世代にも周知できるよう、開催方法を検討し実施していきたい。</p>
<p>③ 「つながりや、連携の輪をひろげる」</p> <p>職種や属性をこえた連携体制の構築</p>	<p>各種事業所連絡会の実施及び運営支援</p> <p>在宅介護に関わる事業所や介護支援専門員の交流等を目的とした連絡会の実施。 ○各種事業所連絡会の開催 ○介護支援専門員スキルアップ研修の実施（年1回）</p> <p>地域ケア会議の活性化</p> <p>校区の地域包括支援センターと連携し、各地域ケア会議から見えた地域課題を整理し、包括ケア会議などへ提案する。 ○包括ケア会議への参画（市主催で月1回） ○各地域包括支援センターの実施する地域ケアマネジメント会議への参画</p>	<p>○各種事業所連絡会の開催 通所リハビリ事業所連絡会 5/24 次回2月予定 小規模多機能居宅事業所連絡会 5/18・7/20 10月運動会予定 居宅事業所連絡会 6/15 次回3月予定／訪問介護事業所連絡会 8/23 認知症対応型共同生活介護事業所連絡会 4/21 短期入所事業所連絡会 6/9 通所介護事業所連絡会 9月予定</p> <p>○介護専門員スキルアップ研修の実施：検討中</p> <p>○包括ケア会議は、毎月参画。（現在、4回） 地域包括支援センター連絡協議会や地域ケア個別会議で出てきた課題などの報告をしている。 ○地域ケアマネジメント会議へは、今年度は南包括に参画した。</p>	<p>各事業所連絡会が実施出来ている。新型コロナウイルス感染症の対応に終始した部分も多かったが、業務内容の共有だけでなく、地域との関わりの仕方などについても検討出来た。 介護支援専門員スキルアップ研修については、ニーズに合わせて実施することが重要と考える。</p> <p>包括ケア会議：地域包括支援センター連絡協議会や地域ケア個別会議の報告ができた。 地域ケアマネジメント会議：南包括の会議に参画。</p>	<p>各事業所連絡会からの意見を集約し、長岡京市の課題として検討を重ね、スキルアップを図れるようにしていく。</p> <p>地域包括支援センター連絡協議会で、地域課題を抽出し、包括ケア会議で提案できるようにしていく。 地域ケアマネジメント会議のあり方についても、各包括と検討していく。</p>
<p>④ 「だれかの困りごとが自分事になる地域に」</p> <p>個別支援と地域支援がつながる</p>	<p>生活支援コーディネーターとの連携強化</p> <p>地域課題の抽出や課題整理など、地域包括支援センターおよび生活支援コーディネーターと連携を重ねる。 ○地域包括支援センター連絡協議会の開催（月1回） ○生活支援コーディネーターの開催する研修などに積極的に参加 ○協議体への参画（随時）</p> <p>チームオレンジ</p> <p>○キャラバン・メイト、認知症サポーター、その他関係機関が参画するチームオレンジを立ち上げる。 ○認知症サポーター交流会の実施</p>	<p>○地域包括支援センター連絡協議会は毎月開催出来ている。 ○生活支援コーディネーターの開催する研修に参加している。 ○自治会から出張講座の申し込みがあった時には、生活支援コーディネーターと共有するようにし、方向性を一緒に検討するなどしている。 ・京都信用金庫 包括合同で出張講座 7/5 次回10月予定 ・出張講座 久貝安心暮らしっく 熟 6/24</p> <p>○認知症対策推進員と協力をし、若年性認知症の当事者と本人ミーティングを行ない、手作業をしたいと言う希望の実現をサポート出来た。また、当事者・家族と一緒に話をする事で、家族支援の部分も担えている。 ○9月のアルツハイマー月間に、図書館で認知症に関する書物を展示予定。認知症サポーター交流会も合わせて実施出来るよう検討中。</p>	<p>生活支援コーディネーターとの連携は積極的に行うことができています。地域で、在宅で過ごす認知症の方の対応について考える機会を作れるように、準備出来ている。出張講座などは、事前に地域活動の情報を共有して、地域のニーズに合わせて企画出来ている。</p> <p>当事者の日常生活上の希望を支援できるように、個別に検討出来ている。 アルツハイマー月間に合わせて、図書館での周知と合わせ、認知症サポーター交流会も実施していく事が、認知症の理解を深めるきっかけになると考える。</p>	<p>引き続き、生活支援コーディネーターとの連携を図る。</p> <p>当事者のやりたいことを実現できる様な地域づくりや環境作りをおこなう。 図書館の展示については、昨年同様実施していく。認知症サポーター交流会を実施する。</p>